仲原小 植樹・生け花で命学ぶ

6年生ら中庭に町花のバラ

花生けて「花育」の教え

全員の花を並べる。一つとして同じ物がない

スコップを使ってバランスを考えながら植樹

粕屋町の仲原小の理科委員会の児童らが2月19日、町花のバラを校内の中庭に植樹した。6年生116人は花を通じて「命のありよう」を学ぶ花育を体験した。両親への感謝を込め花を生け、生け花に満足そうな笑顔を見せていた。

中庭は芝生が生えていたが、管理の難しさや教室が土で汚れてしまうなどの理由で入れなくなっていた。3年生の総合学習で中庭を生かした花壇作りがスタート、2年目となる。久保田了司校長(58)は「奇麗なものを見ることで感動、感謝できる心豊かな子に育ってくれたら」と話す。

花壇は、オリンピックの日本招致が決まったことを受けて5つの円形が並んだ。町独自のバラ「かすやの里」を含む25本が、児童らの手で丁寧に植えられた。5年の仲西大樹君は「とげがいっぱいあって植えにくかったけれど、スコップをうまく使い奇麗にできて良かった」。

◇

花育では、講師の松下泉さん(49)を招き、花を使った命の話を聞いた。松下さんは植えてあった花を切り、「この花は生きていると思いますか、死んでいると思いますか?」と問いかけ、その緒を切って生まれる人間に例えて「命と感謝」を説いた。生け方に迷っていた児童には、「心で感謝するだけでも花は奇麗になります。自信を持って生けて」と声をかけていた。

ピンクのガーベラやスイートピーを生けた百済凜菜さんは「ちょっと恥ずかしいけど、お母さんにいつもありがとうと伝えたい」。

松下さんは「同じ生け花が一つとしてないことが素晴らしい。中学生になってくじけることがあったとき、今日の経験が自信につながればうれしい」と語った。

ピアノに興

宗像市三郎丸の赤間西コミュニティセンターで2月26日、「すくすくコンサート～未就園児のための親子コンサート～」が開かれた。約30組の親子が訪れ、ピアノの音に耳を

コン
招き
・パ
で活
亜希

官兵衛・長政墓所すっきり

200人、官兵衛命日前に清掃

3月20日の黒田官兵衛(如水)の命日を前に16日、福岡市博多区千代の崇福寺に隣接した墓所の清掃活動が行われた。子どもから大人まで約2

黒
保存
拓会
の命
上前
講
時
南
講
と
大
直
両
て
さ
兵
衛
題
て
対
で
さ
兵
衛
題
て
対
で
さ
兵
衛
題
て
対
で